

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892200136		
法人名	メディカル・ケア・サービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム加古川尾上		
所在地	兵庫県加古川市尾上町池田1743		
自己評価作成日	令和2年7月15日	評価結果市町村受理日	令和3年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ兵庫福祉調査センター		
所在地	尼崎市南武庫之荘2丁目27-19		
訪問調査日	令和2年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームでは利用者様が自由に過ごせるよう配慮し可能な限りご自身のペースで過ごして頂いている。職員は利用者同士の良好な関係性の定着に努めており、閉鎖されがちな入居施設からの外出レクや毎日の散歩を実施している。また、家族様との良好な関係を保っており、よく面会に来られる家族様とは意見交換もかっぱつである。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは加古川市の海岸部近くを埋め立てて建設された大規模な神綱加古川工場の北側に位置し、設立から10年になる。事業の開始時を知るベテランのホーム長を中心に職員全員が力を合わせ、利用者や家族に安心を与える日常のケアに全力で取り組んでいる。心配されるコロナの感染も加古川市では比較的少なく、加古川市民病院に神戸市の患者を受け入れている状況で、利用者は依然と変わらないお穏やかな日常を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の生活の場と捉え必要な支援のみをサポートし可能な限りご自身の持つ力で生活して頂けるよう取り組んでいる。	法人理念の「安定的に且つ継続的に良質且つ安全・安心なサービスを提供する。」は事務所に掲げ、朝礼時に唱和すると共にミーティングの場でも職員一同確認しあっている。ユニットごとの行動目標については現在職員で変更の作業中	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩に出る事で近隣住民との挨拶や交流をしている。また町内会のイベント等参加出来る時は積極的に行っている。	法人のスローガンの一つに「地域の人々との触れ合いを大切に」があり、地元町会に加入し地域の祭りや敬老会等の行事には積極的に参加している。逆に事業所のイベントには運営会議や家族を通じて案内を出し双方向での交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談にはお問い合わせがあった際に実施している。地域包括主催の認知症や高齢者福祉の理解を広める活動等に出来る時は参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	広く意見を聞く事と詳しい報告を行ない情報共有をしている。	メンバーは家族・地域包括支援センター・民生委員で、第3木曜日に開いている。参加し易いように開催日を決めているが家族の参加者はあまり多くない。地域の委員から積極的な意見が出ることもあるが、事業所からの報告が中心になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2市2町GH協会に参加し研修会等に参加している。	市の介護保険課には必要な時に適宜相談・報告に行っている。以前は約40施設で組織する“2市2町のGH連絡会”に市も参加していたが現在は不参加。もっと双方が行き来するような方策も検討したい。	コロナの関係で、運営推進会議の中止もあり、市との連携が弱くならぬよう、積極的に情報交換につとめられたい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の取組みとして定期的な研修を実施している。	3月に1回研修を実施している。以前ベットの置き方で身体拘束になるギリギリの事例があった時は止めさせた。チェックシートによる自己管理と上司・同僚からの助言・指導を徹底し、身体拘束を未然に防ぐ体制を整えている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について不適切ケアチェックシート等を活用しながらどのような事が虐待につながる恐れがあるのか等定期的に共有する機会を設けている。	虐待防止マニュアルがあり定期的に研修をしている。虐待を起こす原因は本人の資質に加え、ストレスからくるものが多くその解消のために半年に1回の定期面談や3月に1回の臨時面談を行い、職員の意向把握とストレス解消に努めている。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会参加などで知りえた情報は職員にも伝えるように努力している。	成年後見人の利用者は1人いる。職員の理解を深めるために社内研修を行う一方、権利擁護に係る資料については法人のデータベースからも引き出せるようようにしている。職員には外部研修にも参加させることを考えている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時には家族様に不安の残らないよう説明をしている。随時問い合わせがあった場合には詳細を説明している。	入居時に「重要事項説明書」で詳細に説明し納得して頂いている。消費税が10%になった時は家族から同意書を取った。今後とも契約変更の事由が生じたときは根拠や内容を丁寧に説明し納得を頂く。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会社のアンケートに基づきホーム内に結果を掲示しより良いホーム作りへの目標を設定している。	会社で年1回家族アンケートを実施しておりその結果は玄関にも掲示している。その他、普段のかかわりの中で家族の意向を聞いている。「事業所のイベント内容をもっと知りたい」との要望を受け「ホームだより」を活用してお知らせするようにした。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等で意見を交換する場を作っている。	年1回会社が職員に対するアンケートを実施しており、その結果はエリアマネージャーを通じて管理者まで来る。内容は処遇面での要望が多い。その他、事業所内で毎月ユニット・全体会議を開いておりそこの意見は介護や運営面で生かしている。	福祉関係職場での虐待事件の報道が多い現状下で、コロナの対応も重なり職員への負担が大きくなっていることが考えられる。これを解消するためにも思い切った処遇改善が必要である、関係者の英断を望む。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	前回と比べても職員の入れ替わりは定期的 に訪れている。長く定着する職員を作りた い。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な研修を行なっているが参加率が少 ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人の近隣施設長との関係性が良好 で意見交換等も活発である。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成者を中心に家族様の情報を共有し具体的なサービスが提供できるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	連絡を密にすることにより不安解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症の症状で今困っている事を聞くようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話を多くする心がけをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様一人一人に担当職員をつけ連絡が出来る体制を作っている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人などの訪問は制限していない。また家族様同行の外出や外泊にも制限はしていない。	一般の馴染みの人の来訪は少ないが、事業所のイベントの案内を家族にしており親戚の人が来ることはよくある。その他、利用者から馴染みの場所に行きたいとの希望があれば叶えるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	口論となる場合には仲裁に入れるよう橋渡しをしている。仲の良い利用者の把握と関係性の構築を行なっている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当ホームではサービス利用後の関係性の継続は残念ながらほとんどない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人様の性格の違いに対応した会話をするようにし特徴を把握した対応をするように心がけている。	平素の介護における接触と家族からの情報で利用者の個性を掴み、意向を把握するようにしている。把握した情報は申し送りノートに留め職員間で共有するようにしている。淡路島などへの遠方にも外出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報と入居後の情報の収集をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々生活の中で体調管理に努め本人様の自身で出来る事の把握をしている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者を中心に職員とのヒアリングを行い介護計画を作成している。	3ヶ月に1回再アセスメントとモニタリングを元に見直しをしている。見直しの際作成する暫定介護計画の中に家族の意向が入るシステムになっている。利用者の状況が変化した時は随時見直し、現状に即した介護計画となるようになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は当日のスタッフが行っており必要時はいつでも見返す事の出来る状態にある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	会社で定められた枠内での事業所運営をしている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員が関わる行動にしか参加できていない。利用者個々は思いを語る事が少なくまた楽しめているかわからない事も多い。利用者を楽しんでもらいたいと職員の意識。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医と連携が取れている。	これまでのかかりつけ医か事業所の協力医かの選択制であるが、現在は18人全員が事業所の協力医療機関にかかっている。内科医は月2回、歯科医は月1回の往診があるが、それ以外に通院する場合は職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護により体調管理を行なっている。また24時間のオンコール体制としている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供がしやすい環境を作っている。	入院先の医療機関には事前に「情報提供書」をFAXするとともに入院時には職員が付き添い、入院先の医師・看護師等に口頭で状況説明をする。入院中は適宜見舞いに行き病院・家族と連携を取りながら早期退院に向けた支援を行っている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	提携医の見解を基に必要な説明と対応が出来るような環境にしている。	これまで看取り実績は6件ある。「重度化・看取り指針」があり重度化等に至った人についての個別指針を作成しそれを家族に示し同意を得た上で医師・看護師・介護職員で対応している。事業所での看取りを希望する家族は多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時には管理者ユニットリーダーも近くに住んでいる為かけつけることは可能。また緊急時の連絡網を作成しており		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練に消防職員からの説明など受けている。	年2回消防の協力を得ながら一般的な避難訓練をしている。大雨や洪水災害が起こった場合、周辺に当地よりも高い建物がないため対処が困難でここに留まるしかない。職員14人中半数は夜間災害への対応は可能である。備蓄は3日分ある。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の態度や言葉使いに不十分な点があるが見かけた場合は注意指導を行なっている。プライバシーの保護には注意を払っている。	利用者の尊厳とプライバシーを守るための基本は「声掛け」であり、研修時や朝礼などで職員で確認しあっている。過去に不適切な声掛けや介護態度が見られた時には職員同士で注意し合ったことがある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員間で話し合い利用者の気持ちが引き出せるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活がパターン化されているが出来るだけ利用者の要望を捉えるように考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員の意識により適切な対応が出来るよう支援している。また、理美容などご家族様の要望を取り入れている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、盛り付け等出来る事は利用者様にもして頂いている。	基本は本社が作成した献立表に基づき事業所で食材を購入し調理している。月に1回は利用者の希望を聞いた上でユニットごとに献立を考え、配膳・後片付けなど火を扱う等の危険なもの以外は利用者も共同して作業している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々、水分量、食事を記録し毎月の体重管理にて状態観察している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日1回以上の口腔ケアの声かけ、支援を実施		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力で排泄される方には基本見守りのみになっているが利用者の能力に合わせた介助を行なっている。	オムツ使用者は3人。排泄チェック表で個々の排泄状況や排泄パターンを把握し、自尊心や羞恥心に配慮しながら必要に応じて声掛けや誘導を行っている。歩行リハビリの効果があり改善した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師と話し合い下剤の調整、日々の管理をおこなっている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間の希望を聞いたり入浴剤を使用したり安らげる環境作りをどりよくしている。	週2回午前中の中の入浴を基本としているが、利用者の希望により入浴日・回数などの変更は自由に行っている。入浴を嫌がる利用者には介助者を変えたり日や時間を変更して対応している。同姓介助にこだわる利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	2時間ごとの夜間巡視、室温管理行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助は職員が完全管理している。薬の変更があった場合は看護師リスト、往診リスト、申し送りノート等で周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人のニーズに合った支援が出来るように各利用者に担当職員をつけている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩や外出レクを実施。一人ひとりの要望に沿う事は難しいが家族様との外出や遠出の計画などを実施している。	事業所周辺は平坦地で車の往来も少なくまた大きな公園もあるため日常的に午前中に1時間半ほど周辺の散歩をしている。その他利用者の希望に応じて買物・喫茶店などに行くこともある。その他年に数回は車で遠出をすることもある。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が管理している。必要な物は家族様や職員が買い物を行なう。場合によっては買い物に同行して頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には自由に出来るように支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備について職員全体と話し合いながら配置等行なっている。安全面には配慮できているが清潔面で不十分さが残る。	居間・食堂は広く窓がベランダに面しているため明るい。壁面には利用者が作った塗り絵が掲示してあるが、掲示場所・量ともにすっきりした配置となっており、掃除の行き届いた清潔な居間と相俟って温かみと落ち着いた雰囲気を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは利用者個人は自由な行動をしてもらっており特に制限は設けていない。	た	
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はほぼ、入居者の持ち物で構成されており各々の生活空間が出来ている。	事業所備え付けはエアコンと照明のみである。それ以外は利用者が自由に持ち込み使い慣れた家財で自分の好みに合わせた部屋の配置を楽しんでいる。家族の添い寝のスペースを確保している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	法人の理念に基づいている。		

基本情報

事業所番号	2892200136
法人名	メディカル・ケア・サービス関西株式会社
事業所名	愛の家GH加古川尾上
所在地	加古川市尾上池田1743 電話 079-425-2260

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【情報提供票より】令和 2年 7月 15日事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成I 22年 8月 31日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	8人 非常勤 5人 常勤換算 11.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての1~2階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	円	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有り 200000円	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1650円			

(4) 利用者の概要(2月 20日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 86 歳	最低	73 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	たずみ病院・三木医院・うちだ歯科
---------	------------------